

21 平成30年度 校内研修実施計画

1 研究主題

一人一人に確かな「読む力」を身につけるための学習指導の工夫・改善
—— 国語科説明的な文章の学習を通して ——

2 主題設定の理由

沖縄県は平成29年度、『夢にぬふぁ星プランⅢ』に代わり『沖縄県学力向上推進プロジェクト』をスタートさせた。その中で授業におけるめざす子供の姿として『主体的に「問い」をもち自分なりの考えをもつ』『他者との交流を通し「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める』『学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ』が挙げられている。

本校では昨年度「確かな学力」を身につけた児童の育成をテーマにサブテーマを「読む力」を高めるための学習指導の工夫・改善として指導を行ってきた。その結果、児童自らワークシートを手だてにまとめようと読み取ったり、学習のゴールを示すことで関連図書をもとに単元のまとめにつなげようと文章を読み取ったりする意欲が高まってきた。また、ペア・グループ学習など学習形態を工夫する事で、自分の考えや思いを伝えようとする姿が見られるようになってきた。

しかし、本校児童の実態を全国学力学習状況調査、県到達度調査、市実力テスト等の諸調査の結果から分析すると、目的に応じて文章の内容を的確に捉え、自分の考えを明確にしながら読むことや、漢字や言葉などの言語事項だけでなく資料を読み取る読解力の個人差が大きい。また、教材文の読み取りはできるが、初めて触れる文章の読み取りは苦手といった「読む力」にはまだまだ課題が残っている。

そこで昨年度の成果と課題をふまえ、今年度も「読む力」をつけるための研究を継続しさらに、説明的な文章の指導を通して学び方の手だてや学習過程の工夫をすることで本テーマに迫りたい。

3 研究目標と研究仮説

(1) 研究目標

説明的な文章の学習を通して、読む力を身につけさせるために効果的な発問や学習の手だての工夫・改善について実践的な研究を行う。

(2) 研究仮説

国語科の授業において、説明的な文章の学習過程や指導方法を工夫し、思考を深める発問や手だての工夫と改善を行えば、主体的・対話的で深い学びにつながり「読む力」が高まるであろう。

4 研究主題についての基本的な考え方

読む力とは、単に本や文章の音読や内容を把握するだけでなく、読んだことをもとに考えを持ち、表現していく力であると考え。読む力を身につけるために、「読む（把握・理解）」「考える（解釈・熟考）」「表現する（交流）」といった学習が必要となってくる。そこで、今年度は「読む力」に焦点をあて、研究を進めていく。

第1段階 ◎読む力・・・叙述にそって、文章を正確に読む力

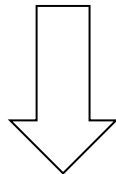
第2段階 ○考える力・・・叙述をもとに根拠を明確にし、自分の考えを持つ力

第3段階 ○表現する力・・・自分の考えを目的や相手に応じて分かりやすく伝える力

5 各学年の系統

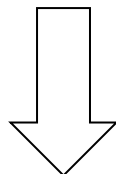
(1) 各学年における「C読むこと」の目標 (学習指導要領から抜粋)

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
(3) 書かれている <u>事柄の順序</u> や <u>場面の様子</u> などに気付いたり、 <u>想像を広げ</u> たりしながら読む能力	(3) 目的に応じ、 <u>内容の中心</u> を捉えたり <u>段階相互の関係</u> を考えたりしながら読む能力	(3) 目的に応じ、 <u>内容や要旨</u> を捉えながら読む能力



(2) 「指導事項」：説明的な文章の解釈に関する指導事項の系統

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
イ <u>時間的な順序</u> や <u>事柄の順序</u> などを考えながら内容の <u>だいたい</u> を読むこと。	イ 目的に応じて、 <u>中心</u> となる文や語をとらえて <u>段落相互の関係</u> や <u>事実と意見との関係</u> を考え、文章を読むこと。	イ 目的に応じて、 <u>文章の内容</u> を的確に押さえて <u>要旨</u> をとらえたり、 <u>事実と感想</u> 、 <u>意見</u> などとの関係を押さえ、 <u>自分の考え</u> を明確に読んだりすること。



(3) 各学年における説明的な文章の「読む」の学習目標 (国語学習指導書 総説編より抜粋)

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
読む (説明文)	語や文のまとまりが分かり、書かれていることの大体をとらえることができる。	順序に沿って読み、内容をとらえることができる。	「段落」の働きを知り「はじめ・中・終わり」の大きな構成と、段落ごとの中心を把握することができる。	段落相互には、さまざまな関係があることを知り、段落の役割をととらえて目的に応じた内容の要約ができる。	文章を読んで、挙げられている例や根拠から筆者の意図をつかむことができる。	筆者のものの見方と自分の考え方を比べながら読む事ができる。

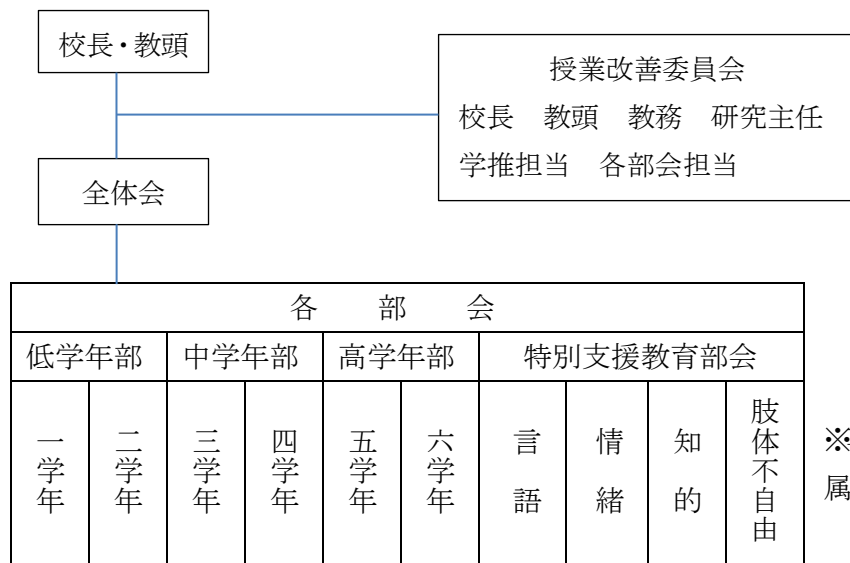
6 研究のための基本方針

- (1) 研究を進めるにあたっては、授業改善委員会を中心に、全体会、学年部会、特別支援部会、隣学年部会を定期的に持ち、全職員の協力体制のもとに研究を進める。
- (2) 授業改善委員会は、校長、教頭、研究主任、学推主任、各学年、特別支援担当で組織し、指導計画や全体会の持ち方、日程調整等、研修が組織的に進むよう企画推進を行う。
- (3) 原則として第1金曜日を授業改善委員会とし、第4金曜日を校内研修日とする。
(ただし必要に応じて臨時に招集するものとする)
- (4) 各学年指導案を作成し、学年部会で研究授業(検証授業)を行う。
(主事を招聘しての全体授業研は低・中・高学年で計3回を基本とする。)
- (5) 特別支援学級担任及び、専科担任も実態に応じた研究内容で授業研究を行う。
※特別支援学級での研究授業については、児童の実態に応じて授業の様子をビデオで撮り後日、授業研究会を持つことも可とする。
- (6) 研究授業の持ち方については以下のように取り組む。
 - ①研究授業や授業研究会では、仮説に視点をあてた授業分析、検証を行い主題追求のための授業研究会を実施する。
 - ②各学年で教材研究を深め、互いの授業を参観し合い、改善点を共通確認し今後の授業へ活かす授業実践を行う。
 - ③全体研実施学年は隣学年部で相談・決定し全体研実施学年以外の学年は隣学年部での検証授業(隣学年で授業参観・授業研究会)を行う。(成果・課題等の記録)
 - ④検証授業は原則として12月までに行い、講師招聘を計画する。
 - ⑤授業研究会の司会、記録、写真撮影は隣学年(各部会)で行う。
 - ⑥授業後、参観者は、「授業評価(よさの共有)」を記載・提出する。
 - ⑦各学年の研究実践(成果・課題)をまとめ研究報告会を行うことで共有化を図る。
 - ⑧研究授業は、金曜日の5校時(低学年)または6校時(中・高学年)に実施し、当日は「特別日課」とする。
(参観学年は低学年(欠時1)または、中・高学年(欠時2)とする)

7 研究内容

- 研究主題、副主題及び研究授業に関する理論及び実技研修
- 基礎的・基本的事項の定着を図る指導方法授業づくり
- 学習意欲を高める教材開発や指導方法の工夫改善
- 学習用具・ノートの指導・学習規律の統一
- 指導と評価の一体化
- 指導力を高めるための理論及び実技研修

8 研究組織



※専科（理科・音楽）は配置学年に属する。

9 各部の役割、内容

	役 割・内 容	メンバー
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の総括（校長） ○研究推進委員会に参加し、職員への指導助言 ○授業研究会・教材研究・理論研究のための講師依頼、指導主事招聘（教頭） 	校長 教 頭
調 整	<ul style="list-style-type: none"> ○研究計画・立案、研究の推進、運営、調整 ○各学年との連絡・調整 ○校内研修の位置づけと研修時間の確保 ○研究集録のまとめ、配布、保管、管理 	研究主任・教務
授業改善 委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研修計画作成と運営・実施 ○各学年の連携調整 ○国語科の理論研修に関すること ○その他の研究推進に必要なこと 	校長・教頭・教務主任・ 研究主任・学推主任・ 各学年・特別支援
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的な計画や内容について共通理解 ○理論研究、実技研修等の実施 ○検証授業及び授業研究会の実施 	全職員
各部会	<ul style="list-style-type: none"> ○学習環境の整備充実を図る。 ○指導案の作成、分析、考察、対応策の検討・実施 ○実態把握と考察、対応策の検討 ○国語科の研修計画及び実践 ○授業研究の運営・記録・記録写真等 ○収録のまとめ 	低学年部（1・2年） （ ） 中学年部（3・4年） （ ） 高学年部（5・6年） （ ） 特別支援（言・情・知・肢） （ ）

10 年間計画

〈平成30年度〉

回	月 日	曜	主な研修内容	形態	研究	修養
1	4/5	木	平成30年度校内研 研究テーマ及びサブテーマの確認	全 体		
2	4/		救急救命法実技研修：「心肺蘇生法」・エピペン※安全部			
3	5/11	金	理論研（ ） ※国語授業づくりの理論研	全 体	○	
4	6/22	金	★授業研（ ）年	全 体		○
5	6/29	金	★授業研（ ）年 同日体力テスト予定	全 体	○	
6	7/6	金	前日市委員会訪問		○	
7	7月 8月		夏季研修①	○諸調査問題分析 ○サービスについて ○特別支援教育・ユニバーサルデザイン研修 アセス研修・道徳・英語・ICT研修など ○その他		○
8			夏季研修②			○
9			夏季研修③			○
10			夏季研修④			○
11	9/14or21	金	★授業研（ ）年 校内童話会	全 体	○	
12	10/19	金	★授業研（ ）年	全 体	○	
13	10/23	火	※市学推授業研究会			○
14	11/9	金	★授業研（ ）年	全 体	○	
15	12/14	金	各学年の成果と課題のまとめ	各学年		
16	1/25	金	本年度の反省 成果と課題から次年度に向けて話し合い	各学年		
17	2/8	金	次年度計画	改善委		
18	2/22	金	次年度計画	改善委		
19	3/1	金	今年度のまとめと次年度の取り組みについて提案	全 体		

※市学推授業学年は 同一指導案での校内研授業の実施も可とする

1 1 授業研究会の進め方・係り分担について

(1)はじめのことば	司 会
(2)指導主事紹介（自己紹介）(3分)	教 頭
(3)授業者からの説明（10分）	授業者 （共同研究者）
(4)全体での話し合い（30分）	全 員
(5)質疑・応答（12分）	
(6)指導助言（30～40分）	
(7)お礼の言葉（2分）	校 長
(8)終わりの言葉	

記録した原稿・写真の保存先
LAN→平成30年度→校内研修
→各学年のフォルダーに
指導案 写真 研究会記録
を保存

	授業学年	授業日	司会・記録	会場設営	湯茶	カメラ	隣学年授業日時
低学年	年		3年	4年	5年	低学年	年()
中学年	年		5年	6年	1年	中学年	年()
高学年	年		1年	2年	3年	高学年	年()

